

# わが街で暮らす

諏訪市地域医療・介護連携推進センター

ライフドアすわの取り組み

地域包括ケアシステムを支える人々

73

令和6年2月11日

自然や文化、産業など魅力に富むこの諏訪地域で、自分らしく希望をもって暮らしを送り続けたいと願う人は多いのではないだろうか。

自然や文化、産業など魅力に富むこの諏訪地域で、自分らしく希望をもって暮らしを送り続けたいと願う人は多いのではないだろうか。

一方で、この活動には長い年月が費やされていることや、認知症に対するイメージへの偏向も重なって、声をあげ続けている本人やその家族は大変な苦勞をされていると聞きます。認知症の診断を受けた後に『仕事や役割を失った』

2025年、高齢者の5人に1人が認知症になると推計されるなか、「認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会をつくらう」と様々な施策が行われており、施策設計には認知症のある人(本人)たちが参画しています。本人たちは、認知症そのものをバリア(障害)として考えるのではなく、生きづらい社会環境こそがバリアであるとして発信を行い、その声は多くの人たちの心を動か

『社会や仲間との距離が離れてしまった』という話も少なくありません。これら生きづらい社会環境について、介護サービス事業所「いぶき」を運営する私自身も我が事として受け止め、本人たちと一緒に認知症バリアフリーの社会を作っていきたいと考えていま

## 仲間と共に、思いが

## カタチとなる社会を目指して

株式会社 一夢希 代表取締役

ふじ もり ふみ たか 藤森 史考

施設メンバーが育てたホップを使い、完成した地ビール(2023年10月28日、長野日報)



いぶき事業所では、スタッフとする側、利用者へ受ける側ではなく、共に支え合える仲間「メンバー」として、自己選択による活動や社会参加(ハタラク)を行って

います。活動例として、近隣法人から依頼の藁の選別作業、美容室のパーマ紙再利用作業、化粧品会社から依頼の紙の裁断作業などがあります。体を思うように動かさない人、その日は活動に乗り気でないという人もいますが、「今日は皆を応援する」場の雰囲気を感じ上げる」といった形で参加できることもハタラクの良いところで

す。朝の会で各メンバーのハタラクが決定し、その日の代表によるエイエイオー!の掛け声によって一日が始まります。

午後の会では「体を動かして疲れた」はつきりとは覚えていないけど悪くない1日だった」など意見交換しながら皆で今日を振り返り、一本締めにて散会します。

今年、ビール原料のホップ栽培にもチャレンジし、醸造会社の協力を得てビールが完成しました。1人の力では難しくとも、皆で集えば大きな力になることを喜び合いました。

諏訪市の地域包括ケアシステムでは、住み慣れた環境で自分らしく暮らしを継続できる地域の構築を目指し、ライフドアすわをはじめ、様々な人たちが協働しています。この協働によって、たとえ介護が必要となっても、認知症となっても、社会・地域・仲間とのつながりが切り離されないことが当たり前になる社会へと歩んでいます。そのような社会づくりを専門職のみで行っていくことには限界があるため、子どもから大人、学校、企業など、あらゆる人たちが手を取り合うことで、より実現へと近づいていくと思われま

私たちが「いぶき」も、素敵な街づくりへと向かうメンバーの一員となれるよう、皆さまと連携を深めながら、これからも日々の活動を通じていきたいと思

次回は3月10日掲載予定